

加茂湖 (両津市)

■環 境：湖沼
 ■対 象：一般
 ■期 間：通年

両津市と新穂村に接し、カキの養殖場としても有名。ガン・カモ類、カモメ類、カイツブリ、サギ類など四季を通し水鳥を観察でき、ワシ・タカ類も多く飛来する。

<佐渡におけるカモ類最大の越冬地>

加茂湖は北は大佐渡山脈、南は小佐渡山脈に挟まれた穀倉地帯、国仲平野の東端にあり、約500haの面積がある。水深は意外に深く約8mある。

両津市と新穂村に接し、明治34～35年に汽水湖（真水と海水が混じりあった湖）になった。カキの養殖でも有名であるが、湖底にたまったヘドロや生活排水の流入で、水質の悪化が進んでいる。

<四季を通して水鳥がにぎわう湖>

探鳥は四季折々に楽しめる。冬のカモ類観察が中心だが、カモメ類、カイツブリ類、ワシ・タカ類、サギ類など

を楽しむこともできる。

湖の周辺は、年々埋め立てや護岸工事などでアシ原が少なくなり、そのためオオヨシキリ、コヨシキリをはじめアシ原に生息する鳥類は残念ながら減少している。

このような状態ではあるが、加茂湖ではマガモ、コガモ、カルガモ（この3種で約90%を占める）を中心としてホシハジロ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、スズガモ、ヨシガモ、ホオジロガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ミコアイサ、ウミアイサなどを見ることができ。

ハクチョウ類は少なく、アメリカカ



加茂湖全景

ドリやカワアイサがまれに見られる。マガモ、ホシハジロ、トモエガモの越冬の観察例もある。

カモメ類はウミネコをはじめオオセグロカモメ、セグロカモメ、ユリカモメ、カモメなどが観察されるが、海上が荒れていればワシカモメやシロカモメに出会うチャンスもある。

<壮観！ミサゴのダイビング>

ワシ・タカ類ではノスリの他にハヤブサやオジロワシのハンティングも観察できる。何ととっても壮観なのは通年観察されるミサゴのダイビングである。

一度に数羽が浅瀬に集まり、ダイビングする光景は一種の感動を与えてくれることだろう。

また水辺ではアオサギが通年観察され、コサギ、ダイサギたちも秋から春にかけて多い。珍鳥カラシラサギの記録もあり、冬季はヤマセミの姿も見かける。

渡りのシーズンでは、秋より春が鳥たちの数が多い。佐渡では数少ないシギ・チドリの観察ポイントで、コチドリ、ムナグロ、ヒバリシギ、アカアシシギ、ウズラシギなど二十余种が観察されている。小鳥類ではシベリアジュリンや夏羽のオオジュリン、ミソサザイ、ヒクイナなどが見られ、開発されたとはいえ、まだ十分に楽しめる探鳥地といえよう。

(近藤昇二)



メモ

交通 両津港からバスもあるが、自家用車かレンタカーが便利。

☐ 特にトイレや駐車場はないが、湖周辺のどこからでも観察はできる。

その他の探鳥地 <国仲平野> 秋から冬にかけて車で国仲平野も観察するとよい。10月から3月にかけて約300羽のマガンやハクチョウ類をはじめワシカモ類も観察される。コースは新穂村から金井～畑野～真野～真野湾。真野湾の海岸道路から海上のカモ類や国府川のカモメを見ることができる。水田ではオジロワシやオオジュリン、シベリアジュリン、コホオアカなどが見られ、94年にはハクガンの越冬記録もある。